

「市長と語ろう！」意見交換会（タウンミーティング）：【対象者別】大学生世代【概要】

令和2年10月17日（土）

10時00分～11時30分

場所 立川市役所本庁舎302会議室（オンライン開催）

1 開会の挨拶

（市長）

おはようございます。このタウンミーティングに学生の皆さんにご参加いただき、本当にうれしく思っています。

もう数年来、このようなかたちでタウンミーティングを開催しております。例えば、今日は午後に子育て世代の方々とのミーティングがあります。それから地域の方々、様々な価値観を持ったグループの皆さんにお話を聞きながら、立川のまちの発展や充実に資していこうということで始まったミーティングでございます。

特に、今日の学生の皆さんの年代というのは、私の子どもと孫との中間ぐらいの年代の方々なのです。ですから、私が受け取る情報の中では、ぼっかりと、一番穴の開きやすい年代の方々なのです。そういう意味からも、私が今日の学生の皆さんとの話が、本当に立川の行政にとっての大きな後押しになっていくのではないかと期待をしております。

オンラインミーティングというのも、これは初めてなのです。つつい私も緊張しているわけですが、ぜひ皆さんにもリラックスしていただき、普段お考えになっていることや、あるいは悩んでいることを、ぜひ聞かせていただければありがたいなと思っています。

限られた時間なのですが、どうぞよろしくお願いいたします。

2 意見交換

■意見交換テーマ：立川市の魅力的だと感じる点について

（参加者）

私は、住まいが八王子なのですが、学童保育所のアルバイトで立川によく行っていたことと、現在通っている予備校が立川にあるので、ほぼ毎日、立川に通っているという状況です。

その中で私が考える立川の魅力的な点は、駅周辺の商業施設がすごく発展していて、経済活動が活発なところだと思っています。モノレール沿いなども開発が進んでいて、勢いを感じます。その一方で、昭和記念公園といった緑も多くて、親子でのびのび遊べる場所が確保されていて、子育てもしやすいのではないかなと思いました。このように、自然と経済の活気のバランスがすごくよくて、都心のいいところと、田舎のいいところの両方を兼ね備えているのではないかなと思っています。

また、私は子育て支援について興味があるので、その分野でもう1つ言うと、ホームページから調べたのですが、「夢たちブック」というものがすごく魅力だなというふうに思いました。マンガ形式になっていて、読みやすく、同年代の子どもたちの実際の声とかが掲載されていて、子どもたちのための施設とか、相談できる施設がとてもよく紹介されていました。学童保育所で働き、子どもたちと接している経験上、悩みを抱えていて、なかなか

か相談できずにいる子どもが手に取りやすい冊子で、こういう施設を周知させるには、すごくいいなと思いました。

以上です。ありがとうございました。

(参加者)

私が考える立川市の魅力的な点は、私は20年間立川市にずっと住んでおりまして、その中で魅力的な点というのは、まず、水がきれい、豊かで飲みやすいということ。2つ目は、ニーズに関係なく、互いに対して思いやりがあり、助け合いが多いことです。3つ目は、駅から近いところで日用品から服まで買える住みやすいまちであるということです。4つ目は、イベント活動が盛んで、子どもからご年配までが楽しめるイベントが多いことです。5つ目は、自然、緑豊かな昭和記念公園などがあって、イベントも多く、とてもいいと思います。6つ目、最後はモノレール沿いの開発が進んでおり、私も利用させてもらっているのですけれども、とても交通の便がよいところです。

以上です。

(参加者)

私は実を言いますと、立川の者ではなくて町田市の者なのですけれども、そういうわけですので、あまり立川市の根幹に触れるようなことは、残念ながらできないのですけれども、立川市さんが策定された第4次長期総合計画の後期基本計画というものを、今拝見しております。こちらのデータの中で、私が特に興味を持ったのが、図書館の利用人数、図書館資料を借りた延べ利用者数というものが、現状値、平成30年度で60万7,800人程度ということで、これに関して僕は割と多いほうではないかと思っていて、多いとすると、やはりこの図書館運営とといいますか、図書館のイベントとか経営とかにも様々な工夫が見られて、とてもいいのではないかなと思いました。

そのような感じですか。以上です。

(市長)

ありがとうございました。

お二人からモノレールの話が出ました。モノレールは今、立川駅を中心として運行していきまして、将来的には、立川を起点として、北のほうは武蔵村山、西のほうは瑞穂町、南のほうは八王子、そして町田、大体この都市を想像していただけると、丸い円が想像できたかと思います。最終的にはモノレールはこのようなかたちで、多摩地域の真ん中をぐるりと一回りするという計画になっております。まだ今の状態ですと、計画の3分の1にも到達していない状況です。これを、1日も早く丸くつなげていただきたいということで、いろいろ運動をしています。私は多摩地域都市モノレール等建設促進協議会の会長もやっておりますが、昨日は国土交通省に伺いまして、ぜひ、モノレールをつくるのには莫大な資金がかかるので、これは国が積極的に関わり、特に資金の面は国が受け持っていたかなければ、多摩地域の発展はこの先あり得ませんと陳情をしてまいりました。立川を選挙区とする国会議員と一緒にそのような活動をしてきたところです。

最終的に円になることを目的としてやっていきたいと思います。その頃は、皆さんが社会の中核にいるような立場になっていると思うので、昔々、立川市長の清水というのがそ

のようなことを言っていたけれども、まだ100%に行かないので、我々がやっぱり表面に出て努力していかなければならない、というときが来るかとも思います。ぜひそのときにはよろしくお願ひしたいと思います。

そのほか、私はもう少し辛口の発言をいただくものだとばかり思っておりました。普段、議会の中で、議員さんから辛口の質問を頂戴していることが多いものですから、そのつもりで朝から覚悟して来ました。私は、辛口の質問や辛口の方向性を言っただいて、そして私が受け止めて、それを市の職員ともども、市民の生活の向上や、あるいは環境の安全性などに取り組んでいかななくてはいけないということは、当たり前だと思っております。ぜひ遠慮しないで、辛口の意見を聞かせていただきたいのです。もしかして、私が今やっていることの中で、足りないことが隠されているのではないかという思いは、いつも持っているのです。一生懸命やっているのに、肝心なところが抜けてしまっていて、市民の役に立たなかったという結果には絶対にならないように、できるだけ辛口のお話を伺いたいなと思っております。次の発言のときには、ぜひそこら辺をご承知おきいただきながら、発言していただければなと思っております。

図書館のことをお褒めもいただきました。もともと図書館は充実をさせていきたいと思っております。何しろ、図書館の本館が立川駅の北口の300メートル程度の大変すばらしい立地にあるものですから、市外の方がかなり大勢利用していただいています。立川市民だけではなく、近隣市の市民がご利用いただいているということであるならば、私は立川の市長として非常に満足しております。ぜひこれからも積極的にご利用をお願いいたします。

(参加者)

立川市の魅力的な点についてですが、自分自身は立川市には住んでいなくて、神奈川県相模原市に住んでいます。ですが、自分は立川市を訪れる機会が多くて、私の母は百貨店が好きなのですけれども、去年までは相模原市に伊勢丹相模原店というものがあったのですが、残念ながら閉店してしまいました。私の母はすごく伊勢丹が好きだったので、立川市の伊勢丹まで買物に行ったりします。ですから立川市の伊勢丹にはなくなってほしくないと常々思います。それも含めてなののですけれども、立川駅の周辺の施設の開発がよくされていて、すごくコンパクトにまとまっていて、交通の便もよく、非常にすばらしいなと思います。

その中で、今、多摩モノレールのお話がありましたが、私は町田市の桜美林大学というところに通っています。大学のすぐ後ろに区画道路みたいなものがあって、そこに駅ができるというような話をよく聞くことがあるのですけれども、それをすごく楽しみにしています。

また、魅力的な点としてもう1つ、先ほども皆さんおっしゃっていたのですけれども、自然とか、昭和記念公園などは特にすばらしいと思っております。今日は箱根駅伝の予選会があると思うのですけれども、立川市の駐屯地で行われていて、私もこの箱根駅伝の予選とか、毎年楽しみにしていて、いつか見に行きたいなと思っております。

以上です。ありがとうございます。

(参加者)

立川市の魅力的な点は、まず交通のアクセスがいいところが魅力なのかなと思います。駅だけでも、中央線や南武線、青梅線、西武拝島線、多摩モノレール、たくさんの路線が通っているという印象があります。こうした路線を通して、市外や県外からも人が集まってきています。

あとは、私は立川駅周辺のことしか分からないのですが、特に立川駅周辺、伊勢丹とか高島屋とか、ドン・キホーテとかルミネとか、いろいろな大型商業施設があります。あとは、大きい書店がたくさんあるというのが魅力的だなというのは思っていて、立川市に行くたびに、ジュンク堂とか、オリオン書房とか、立川市に行くたびに立ち寄って、いろいろな本を見たりするのが好きです。

あとは、防災館とか極地研究所、国文学研究資料館とかといった学びの場も充実しているという印象もあります。国文学研究資料館は興味があるので見たいなと思っています。

私は、先ほども言ったのですけれども、大学では生涯学習を専攻していて、その中で、立川市の講座や、市民交流大学の会議に参加させていただいたことがあり、たくさんの講座を市民が企画運営しているところを見まして、生涯学習が活発なまちであると感じました。また、市民一人一人が、学びの意識が高いのかなという印象も受けました。今はコロナウイルスの影響で講座も定員が少なくなっているのですけれども、その中で定員オーバーになるなど、申込みが多い講座もあります。女性総合センターのアイムや、地域の学習館で、たくさんの市民が学校を終えても学び続けられる環境があるのかなと、整っていると感じました。

私からは以上です。

(市長)

昨日も、武蔵村山市長が私のところにお見えになり、何とか早くモノレールが開通できるように、ぜひ国のほうへもお願いしてきてくれとのお話がありました。先ほど言いましたが、武蔵村山市のほうに先が工事が始まると思っています。その次は、恐らく町田であろうと思います。まだまだ、皆さんが若いうちにきっと乗れるようになる。私の場合は、もう杖ついているような年になると思うのですけれども、そんな状況にあります。期待をしてもらっていいのではないかなと思います。

そのほか、交通アクセスの話がありました。これは、運のいいことに、立川駅は見てもらえると分かるのですけれども、南武線とか、青梅線とかですね、いろいろな路線の結節点になっているのが立川駅です。立川駅で乗車するお客さんは、1日平均16万人です。東京都内のJRの駅の中では23区を除くと、立川駅が一番多い。必然的に、人が多く集まれば、様々な商店などが、繁盛していくということですから。先ほど、伊勢丹の話がありました。立川には、デパートが頑張ってもらって残っています。それだけ、利用が多いから残れるわけです。それも、交通の結節点ということで、電車に乗ってデパートへ来てくれる方も非常に多いということです。人が多いため、人が集まりやすいまちであるからこそ、そういうことができるということで、私どもも大変、今後の期待を持っています。それから、皆さんGREEN SPRINGS（グリーンズプリングス）というのを聞いたことがありますか。今、ホテルができたり、それから、劇場ができました。2,000人を超える観客が入場できる劇場ができました。やはりこれも、多摩地区で最大規模の劇場だということで、超一流のエン

ターテイナーが公演をできるほどの観客数というのは、2,000席無いと難しいとのこと。立川には、お客さんが来ていただけるだけの立川駅というものがきちんとあるので、交通の利便性は高いからこそ、その劇場も立地していけるのではないかと考えているところ。私の方からは以上です。

私のほうからは以上です。

■意見交換テーマ：立川市に足りない点・より良いまちになるために、どうしたら良いか
(参加者)

立川市に、私が足りないと思うところは、まず、立川駅の南口周辺の治安が少し気になるかなと思います。南口のグランデュオでアルバイトをさせていただいていた時期がありました。そのときに、いつも同じ道で客引きやスカウトをしに来る人がいました。一応、条例もあって、勧誘禁止という看板が多く置かれているのは分かるのですが、その看板の前で勧誘をしているのを見ることがもありました。ホームページで調べさせていただいたのですが、夕方から夜間にかけてパトロールをやってくれているということなのですが、昼間の2時とかでも普通に勧誘は行われているので、なかなか難しいと思うのですが、昼間のパトロールもやってくださったらうれしいなと思います。

あと、もう1点だけあるのですが、空き家がすごく、年々増加していて、これも立川市に限ったことではないのかもしれませんが、空き家を市のほうでいろいろ開発、利用できるようにして、子育て支援のスペースとか、子ども食堂とか、そういう地域のために利用できる施設をつくったら一石二鳥なのではないかなと思っています。

以上です。ありがとうございました。

(参加者)

私が立川市に足りないと思う点というのは、まず1つ目は、先ほども同様の意見がありましたが、立川の南口なので、やはりところどころに治安が悪いところがあって、ちょっと近寄り難いと思うところ。それに対して、よりよいまちになるために、まちの安全策を設けて警備員を多くつけることが大事だと思います。

2つ目は、観光の面なので、観光地としての立川市の魅力というのが、伝わっているとは思いますが、まだちょっと周りに伝わっていない部分があるかなと思います。なので、私は、情報発信の特化というのをやれば、もっともっと魅力が伝わるのではないかなと思います。

3つ目は、私のおばが立川市に住んでいるのですが、おばのようなお年寄りが自宅からでも行きやすいサービスを展開することだと思います。例えば、自宅から近くの買物施設をもう少し増やしたり、立川の駅前にもいっぱいあるのですが、やはり、いろいろなところに展開することで、お年寄りの方々も行きやすいのではないかなと思います。

最後、4つ目は、先ほどよい面、教育面などで、図書館の活気が良いというお話がありました。しかし私の体験で、自宅から近かった図書館が少し遠くに移転してしまったということがありました。それで、私や、私の祖母がバスで自宅近くの図書館まで通っていたのですが、その図書館が移転してしまったというので、やはり遠くなって不便だなと思っています。そのため、ほかにも多く図書館施設をつくってほしいなと思います。その対策として、コミュニティにつながるような図書館をつくって、プラス学生の皆さん、

利用者が利用しやすいようなスペースであったり、自習スペースをつくるというのがよいと思いました。

以上です。ありがとうございます。

(参加者)

私も、2つほどお話ししたいことがあります。1つ目は他の方もおっしゃっていたとおり、公共施設の配置と申しますか、図書館を少し別の施設に変えてみようとか、そういう公共施設のスリム化について、順々と取り組まれているということなのですが、私が住んでいる町田市も同じような傾向に今あります。その中で町田市民の声が若干行き届ききれていない部分があると感じております。私は立川市民ではないので、立川市も同じような状況なのかということは申し上げることはできないのですが、例えば、町田市の図書館の例で申しますと、その図書館はすごく地域にとって重要な位置で、周りも若者ばかりというよりは、お年寄りのような移動に不便な方が多い地域に、拠点となるような図書館があるので、そこを今、その図書館をやめて別の施設にしてしまうか否かという話が町田市では進んでいます。その中で、市民はその図書館を維持してほしいということを強く主張しています。しかし、残念ながらそれがなかなか通らないということがありまして、立川市はそのような状況にはならないで欲しいというか、そういう思いがありましたので、今、ここで申し上げました。

2つ目が、歴史民俗資料館の資料の収蔵数についてです。先ほど申し上げました長期計画のパンフレットを今見ているのですが、そちらに、令和6年度には資料数1万7,200点を達成するということが掲載されておりますが、単に資料数を増やすだけではなく、収集した資料をどう扱うかということに、私は少し関心があります。といいますのも、私は大学で博物館学芸員の資格を取得するための講義を受講しているのですが、その中でしきりに出てくるのが、博物館資料をいかに大事に扱い、保存していくかということなのですね。せっかく収集した資料なども、保存の仕方があまり適切でないと、せっかく収集したかけがえのない資料が失われてしまう可能性が高くなり、そのことはとてももったいないことだと思います。特に歴史民俗資料館のものになりますと、立川市のある意味、アイデンティティーといいますか、立川市の特徴というものをそのまま如実に伝えるものが失われてしまうということになって、これはすごくもったいないことだと思うのです。ですので、資料を収集するというところに重きを置くだけではなく、ぜひとも資料保存についても、積極的に進めていただきたいと思います。以上です。

(市長)

まず2名の方からご指摘がありました立川駅南口の客引きですが、市としても非常に困惑しております。夕方から夜10時までパトロールをしており、夜のほうは充実をしてくれているのですが、昼の客引きというお話は、私自身は初めて聞きました。昼は子どもたちも通りますし、若い女性も大勢通ったり、外出する方も多いわけですから、まさに治安をしっかりとっておかないと、立川市へ来た人たちが迷惑するようなことでは困りますので、これはもう少し情報収集をしながら、しっかり対応していかなければいけないなと思いました。

それから、ありがたいお話で、観光地立川というお話を頂きました。そういう観点から見てまいりますと、まだまだ立川の情報発信というのは、うまく発信できていない部分がたくさんあるのではないかと考えております。いわゆる観光地という発想は出ませんでした。例えば、買い物のためだけに立川市のデパートを訪れることというのだから、沢山あるわけですから、観光地という考え方をベースにしてものを考えると、ちょっと今までの私どものやってきたこととは別の方向にもきちんと目を向けなければいけないということを感じかせていただきました。これは、参考にさせていただきたいなど、これからの立川で参考にさせていただきたい。よろしく申し上げます。

あと、図書館のお話が出てきました。確かに図書館は、立川の図書館の本館などは、他の都市の図書館と違って、市外の利用者が多いというお話を聞いております。こういう方々まで図書館サービスをさせていただいているわけでありますけれども、大変だというのはもう当たり前ですが、先ほど、観光地立川という言い方、呼び方がありました。まさに、そういう視点からものを見ていかなければならない。そういう視点からものを見ると、まだまだ立川のまちとしては足りない点がたくさん掘り出されてくると思っております。こういう面から、こういう視点から、行政もやっていかなければならないということで、参考にさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

それから、博物館や図書館の資料の扱いのお話ですが、これは本当に、歴史民俗資料館など行ってみるとよく分かりますけれども、このままで行くと、この先どうなるのだろうという心配があります。妙手といいますか、うまい手があればまた勉強させていただいて、やっていかなければならないと思っております。なかなか厳しいものがあります。場所や資金が必要であったりとか、必要に応じて市民に公開しなくてはいけない性質もありますので、これも1つの大きな課題として捉えさせていただきたいと思っております。

私からは以上です。

(総合政策部長)

市長からお答えがあった以外のご意見等について私から補足説明をさせていただきます。確かに立川市では空き家が増加しています。現在、市では空き家対策の条例を策定し対応しているところです。皆さんのお住いの近くにも、もしかしたら空き家があるかもしれません。おっしゃっていただいたとおり、空き家を利活用する提案は良いと思っておりますが、空き家であっても所有者がいるため、利活用には制限があり課題となっています。

また、情報発信に関するご意見をいただきました。確かに立川市には様々な資源があり、色々な媒体を活用して情報発信を行っていますが、まだ足りない部分もあります。現在、市の魅力を市内外に発信するため、市のブランドメッセージを作成するワークショップを開催しています。八王子市では「あなたのみちを、あるけるまち。」をブランドメッセージとして情報発信しています。

本市でも関係機関や公募市民の方で構成するワークショップを開催しブランドメッセージを作成し、今後それをもとに市の魅力を発信してまいります。

(参加者)

立川市の問題点ということなのですが、私自身、立川にあまり住んでいないので、根本的なことはあまり言う立場にはないと思うのですが、その中で、私自身が、多

摩未来奨学金の6期生として、去年活動させていただきました活動の中で、多摩地域全体のことについていろいろ学んだり考えたりする機会がありまして、その中で、立川市はやはり多摩地域の自然を守っている場所であるということがあると思います。先ほど話があったように、空き家の問題や、立川市は人口の推移を長期的に見たときに、少子高齢化は、どの地域でも進んでいく問題であって、その中で、多摩地域をより活性化していくには、やはり、先ほどあったように情報発信ということが一番大事になってくるのではないかと思います。

日本国内に情報発信するのももちろん大事、とても大事だと思うし、空き家の活用とかいった、若者とかに向けて発信することは非常に大事だと思います。それと同時に、やっぱりグローバルというか、世界に向けても情報発信することは大事になってくると思っていて、私自身、神奈川県にずっと住んでいたのですが、小学校とか中学生のときは立川市の存在自体を知りませんでした。高校生になってから、東京都内の高校へ通うようになって、部活動の遠征などでいろいろなところを訪れる中で立川市のことを知りました。その中で立川市を見たり訪れたりする中で、やっぱりすごく魅力的な市だと感じたので、もっとその情報をいろいろなところに発信して行ってほしいなと私は思っております。

以上です。

(参加者)

私は、現在、実習で立川市の男女平等参画課とか、生涯学習推進センターのところでお世話になっているのですが、その縁で以前、男女平等参画推進審議会に参加させていただきました。その中で、立川市の自治会連合会の方がいらっしゃって、その方は自治会の代表で女性の方が1割にも満たないということをおっしゃっておりました。理由としては、面倒そうとか、大変そうとか、私もそこまで自治会には詳しくはありませんが、やっぱり自治会に入っていない人は多くて、入っていても活動に積極的でない人がいまだに多いそうです。まとめると、立川市に足りていない点、課題点は、地域住民同士のつながりが少し希薄なのかなというところですね。自治会とか、ふだんはあまりメリットなどを感じないかなとは思いますが、災害時や、有事の際にあらかじめ築いておくことで、助け合いができるというメリットはあると思います。自治会に入って、住民同士で付き合えるそういう仕組みというのが必要なかなと思っています。

もう1つは、この前、立川市の弁護士の方とお話する機会があったのですが、市役所で自立支援とか住居確保のための給付金とか、いろいろな支援が受けられるというのを伺いました。しかし、そのような支援制度があるにもかかわらず、そういった支援の情報が市民にあまり届いていないという声を聞きました。やはり、先ほども出ましたが、市外だけではなくて、市内に向けても、例えば広報誌以外にも、別の紙媒体などで、支援情報についてまとめたものを市民に配るとか、SNSなどで発信するとか、情報発信が必要なかなというふうに思いました。

私からは以上です。

(市長)

まず、立川市の少子高齢化に関する見解というのは、今後の市政運営の最大の課題だと思っています。今まではおかげさまで、僅かではありますが人口が増えておりまし

た。去年から今年もまだ若干増えているのです。しかし、その内容を見ますと、新たに子どもが生まれて人口が増えたということではなくて、他の自治体から引っ越しをしてくることによって人口が増えているのです。要するに、20代とか40代とか50代とか、そういう方々が立川に居を構えるというかたちで増えているようです。そういうことから考えますと、実際に子どもたちが増えていかないのではないかとということが目に見えてきました。これは大変なことなのですね。成人した方たちが、仕事の関係で転入してきた、あるいは、何らかの社会的な条件の中でやむを得ず転入した人たちが、立川市に定住をしてくれるかどうかというのは、分かりません。その仕事が終わったら、立川市から転出をするケースというのはかなり多いことが想定されるわけです。

立川市で生まれた市民というのは、これはもう最低でも一定の年齢ぐらまでは立川のまちで生活をしていく場合が多いわけです。ここの部分が減り始めたということになっているのです。去年から今年にも、実は人口が増えました。しかしながら、出生の増加はなかったのです。対前年比マイナスになりました。こういうことですから、私といたしましては、最大の課題であると思っております。今後は子育てのしやすいまちづくりのための施策をしっかりとやっていくことによって、安心して子育てができ、安心して生活ができるようなまちづくりにさらに注力していかなければいけないと思っているところでございます。

将来の子や孫に負の遺産を残すということは、現代を生きる子どもにとって絶対に許すことのできないことですから、可能な限りの少子高齢化・人口減少対策を取ってまいりたいなと思っております。

自治会の加入率の低さなども、それが非常に影響しております。途中から立川市に転居をしてきて、それぞれの地域の中で生活を始めたような人たちは、ほとんど自治会活動等に参加をしていただけない状況でございます。自治会の入会者減というのは、そこが一番大きな原因なのです。お話がありましたように、有事の際の対応についても、地域社会の中でそれぞれ助け合って、すぐに避難行動を起こすなどの対応をとらないと、時間的に間に合わないときもあります。自治会の皆さんには、有事の際の対応は自治会を中心として回していくということを念頭に置いていただき、市としても、それに対してしっかりとバックアップや強化を図っていかなくてはいけないと思っているところであります。

支援情報が市内に十分に行き届いていないのご指摘に関しても、最終的にはこうしたことに行き着くのですね。やはり、地域社会の中で様々な活動をする中で、情報も自然と密に届いてまいります。また、先ほどもありましたが、有事の際は一人の力では太刀打ちできない場合もあるわけですから、隣近所とのつながりが濃くなっていくということは重要なことであるということです。そのことをもう一度、自治体の立場としてもしっかりと情報発信をして、分かっていたくような、そんな方向に行かなければいけないと考えております。

私からは以上です。

(総合政策部長)

先ほど、世界に向けた発信をもっとというご意見をいただきました。立川市のいろいろな場所がアニメや漫画でも取り上げられています。例えば「聖☆おにいさん」ではオニ公園が出てきます。また、黒木華さん主演でドラマ化された「凧のお暇」も立川が舞台とな

っています。

世界への発信については「とある科学の超電磁砲（レールガン）」とコラボして、中華圏を対象とした市を紹介する動画を配信しましたが、多くの方にアクセスをいただきました。今後も広報紙以外にもホームページやツイッター、動画チャンネル等で情報を発信していきます。

■意見交換テーマ：市長への質問

（参加者）

ありがとうございました。

先ほどの少子高齢化のお話について、お伺いしたいことが1点あります。子どもが本当に増えていかない状況で、子育てしやすいまちにしたいというふうにおっしゃっていたのですが、立川市ではファミリーサポートセンターや、子育てひろば、お母さん・お父さん向けのイベントや講座などを行っていると思うのですが、具体的に何に力を入れていきたいのかという点と、何か他に新しい施策を考えていることがありましたら教えていただけると嬉しいです。よろしく願いいたします。

（市長）

今、若い夫婦は、ほとんどの方が専業主婦ということではなくて、夫婦で仕事をしてらっしゃる方が多いです。そのような状況なので、子どもさんを預かれるような施設が重要です。例えば待機児が問題になっていますが、私どもは、実は今年から保育園の待機児童は実質的にゼロなのです。学童保育所も充実させています。取りあえずは、預けたいと思う方のスペースというのは、きちんと用意できるような形になりました。これは、いわゆる若いご夫婦にとって一番大きなプレゼントじゃないかなと思います。そのような、いわゆる乳幼児対策もしっかりやっていくというところが、私は一番大きなポイントじゃないかなと思っています。

（参加者）

2点ほどございます。まず、先ほど観光の話などが出たのですが、市長が考える、立川市といえばこれというような、観光地や、シンボル、名産地、名産品などがあれば教えてほしいというのが1点です。2点目が、コロナ禍の状況下で、立川市が独自で何か支援していることなど、例えば民間企業向け、あるいは生活保護など、何か立川市で独自でやっていることがありましたら教えてください。

（市長）

まず、観光ということですね。人に集まっていただくということ、あるいは楽しんでいただく、立川に来て楽しんでいただくということを一言でということになりますと、私の価値観からは、「ごった煮」だろうと思います。例えば、映画館があります、それから、デパートもあります、飲食店もあります、劇場もあります、昭和天皇記念館もあります。それから、昭和記念公園というのは、日本でも有数の公園で、どこへ行っても自慢のできる内容です。

例えば、大勢の方々が集まって2時間でも3時間でも過ごすことが出来る公園なんてい

うと、面積を広く取るものですから、そのような公園というのはつくりづらいです。ところが、立川はそれができるのです。そういうところが、私は、他市に真似のできない、市民サービスにつながっているのではないかと思います。立川駅から歩いて10分もかからないところに昭和記念公園はありますから。そのようなまちってあまりないと思います。代々木あたりに行くと、昔からの代々木公園がありますけれども、駅前がもう公園というものもありますけれども、立川が自慢できる場所であろうかなと思います。

先程、「ごった煮」と評価しましたがけれども、立川市は自然から、人工のものから、文化的なものまであります。しかし私が長いこと思っていたことは、立川には美術館がないので、美術館ができれば、もう立川は万全だなと思っておりました。ここで、GREEN SPRING S(グリーンスプリングス)の入り口のところに、多摩信用金庫が美術館をつくりました。それほど大きくはないのですけれども、じっくり見て歩くと30分以上かかります。そのぐらいの美術館をつくっていただきました。なおかつ、立川市の中学生には、卒業するまでに必ず1回は美術館の鑑賞をしてもらいたいという思いがあります。そのためのバス代などは出しますということで、もう来年度の予算はそれを計上する予定です。美術館のほうでも、いろいろ考えていただいて、子どもたちの入場料を無料にするというお話も今、出ております。市のほうで負担するのは、子どもたちの交通費だけというかたちになりそうで、大変うれしく思っております。そういうかたちで、総合的に、あらゆる角度から市民生活に役立つものを提供していくというのが、立川の特徴です。これがナンバーワンだよという、ナンバーワンはこれだけですよということではなくて、何でもありみたいなかたちになりますけれども、そういうところが、私は立川の一番の魅力であると思います。

(総合政策部長)

コロナ禍における立川市の支援策についてご質問をいただきました。皆さんご存知のとおり今年の5月以降に特別定額給付金という国の制度が実施され、市民お一人あたり10万円を給付いたしました。この給付金以外に一人あたり1万円を給付する市独自の支援も立川市では行いました。

また、立川市には非常に魅力的な中小事業者が多いのですが、事業者支援のために家賃助成なども市独自で行いました。代表的な支援策は以上となります。

(参加者)

私からは2点ほど質問があります。

1つ目は、新たな10年後のまちづくりという未来像はありますか。

2つ目は、周辺の市町村とどう連携しているのか。例えば、立川市と隣接している昭島市や武蔵村山市などとの連携を知りたいです。やはり、それこそ先ほどの質問にあった、観光地立川を伝えていく中で、地域同士で連携していくという方法もあると思うのですが、その辺を教えてください。

(市長)

10年後ということではなくて、今、10年計画の最初の5年が終わって、後半の5年に入るところです。立川のまちは、今後の5年間のまちづくりについては、具体的にもう文章にもしております。やはり何と言っても、市民の健康や命を大切にする、こういうしつ

らえをやっていかなければならない。それと同時に、文化などを大事にして、そして、やすらぎの感じられるまち並みにしていただければいけない。このようなことをベースにして、今、まちづくりをやってきているところでございます。このことに関しましては、まだ詳細に担当の部長のほうから、後ほど話をしてもらいます。

そのほか、また、担当の部長から答弁をさせていただきます。

(総合政策部長)

10年後の立川市の将来像につきましては、先ほど市長が申し上げたとおり、立川市第4次長期総合計画で定めましたまちの将来像である「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」を目指してまいります。長期総合計画は10年間の計画となりますが、前半の5年間で終了し、今年から後半の5年間で始まります。

「にぎわい」と「やすらぎ」は相反する言葉かもしれませんが、立川駅前を中心とした「にぎわい」と多摩川、砂川地域等の農地、昭和記念公園など自然の「やすらぎ」が調和していることが立川市の特長となります。

また、近隣市との連携につきましては、本市を含め9市の市長に集まっていただき、広域連携サミットを清水市長が発起人となって開催しております。そこで広域的な取組についても市長同士で話されております。

3 閉会の挨拶

(市長)

どうも皆さんありがとうございました。

なかなか議会からは出ないような、皆さん方の独特の視点からいろいろなお話をさせて、ご質問を頂戴しました。大変楽しい時間でした。いずれにしましても、今日の皆さんからご提案をいただいたり、ご質問をいただいた中で、立川市に少し足りないなという部分もあったわけでございます。ぜひその点もこれから修正をしながら、皆さん方のご意見を頂戴しながら、当たってまいりますと思っております。

どうぞ、5年、10年と言わずに、40年も50年も、これから皆さんが立川のまち、散歩に来ていただける、買物に来ていただける、あるいは立川のまちで生活をするということが、安全で安心にできるようなまちづくりをしてまいりたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

今日はどうもありがとうございました。